

中部経済新聞

2016年(平成28年)
4月9日
土曜日
発行所
中部経済新聞社
〒450-8561
名古屋市中村区
名駅4-4-10

(1) 第23170号

起業家魂

最終面で好評連載中

中部経済新聞 2016年(平成28年)4月9日 土曜日 (14)

起業家魂

(8)

多様な教育ニーズに対応

ライトハウスエデュケーション(松下一徳社長)は、総合的な教育サービスを提供。学習塾や英語教室、留学のあっせんなど事業内容は多岐にわたる。

ことし1月に教育事業者3社の対等合併により誕生したばかり。完全個人指導の学習塾を継承する和田塾、総合個別指導のライトハウスコミュニケーション、英語教室を展開するオプネットが互いの足りない部分を補い、かつ、それぞれの強みをより生かすため一つになった。

各社とも、静岡県西部で着実に生徒数と教室数を伸ばしてきた。それでもあえて合併の道を選んだ理由について、オプネットの高塚勲久さんとともにライトハウスエデュケーションの会長を務める、和田塾代表の大場規之さんが説明する。

ライトハウスエデュケーション

「重要には2020年に実施される教育改革がある。グローバル化社会の進展に伴い、小学校の段階から実践的な英語教育が導入される見通しだ。こうした大きな変化に対応するには、関係者との連携が有効と考えた。

互いに同業者として意識しながらも接点がなかった3人の代表者は、思いがけない形で結びついた。「子どもPTA活動がきっかけ



大場規之会長

で他の2人と面識ができた。『この機会を逃すまい』と勇断に連携を持ちかけた』と笑って振り返る。

合意がなされれば合併までの動きは速かった。複雑な事務手続きも円滑に進め、経営統合に成功した。

経営体は一つになっても、各社の教室はブランドを残したまま継続する。それぞれの教室に通う生徒を自由に紹介しあうことで、多様な教育ニーズに対応し、そのメリットを最大限に生かすため、講師などの人材の交流を促進させる。

悪い例は、ビジネスモデルが異質化することだ。大場さんは強信を深めている。「さまざまなアイデアを出し合うことで可能性はどんどん広がる。実感している。まさに『3人割れば文殊の知恵』。仲間がいるのは心強い」と結果による効果を強調する。

独自の体制で教育事業にたどって勝負時の新学期を迎え、大場さんの意気も揚がる。「教育に関するどんな悩みにも応え、地域ナンバーワンをめざす」。

【プロフィール】おむねは、のりゆき 52歳。静岡県浜州市出身。

【企業メモ】本社「浜松市中区佐鳴台5-28」の2F。電話「053・449・1144」。設立「2016年1月」。従業員数「100人」。